

上海レポート

令和5年1月号

Vol. 29



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20230110 号	垣根を越えるスオナ	副所長 小森亮人
20230116 号	「21 世紀の結婚事情」はどう変化したか	所長助理 徐 潔
20230130 号	初詣	所 長 南浦秀史

垣根を越えるスオナ

スオナ(スオ：口偏に鎖の右側、ナ：口偏に内)という楽器をご存じでしょうか。木製の本体部分に金属製のベルが付いた 2 枚のリードで音を出す管楽器…と言っても中々イメージが湧きませんが、日本におけるチャルメラのルーツとなった中国の伝統楽器です。元々京劇や冠婚葬祭の際に演奏されることが一般的でしたが、近年では現地のポップスの中で使用されるなど新しい試みも多くなされている楽器でもあります。そんなスオナで日中のアニメ、ゲーム音楽をカバーするというユニークな演奏会が市内中心部にある上海音楽庁(上海コンサートホール)で開催されました。

当日の会場は、19 時半開演という遅めの時間帯ながら若い人に加えて小さな子供連れで来場している方も多く、楽器演奏主体の演奏会らしからぬ賑やかな雰囲気が印象的でした。演奏は主にスオナが主旋律、ギター、ベース、キーボードとドラムが伴奏を務めるバンド形式で、開演までどのような音楽が展開されるのか全く想像がつかなかったのですが、いざ演奏が始まると独特のハリと抑揚を備えたスオナの音色とバックバンドとの絶妙な調和がとても魅力的で、一気に引き込まれてしまいました。観客の反応も大変よく、紅蓮華、前前前世、群青など近年日本でヒットした曲が演奏された際にはとりわけ大きな歓声が挙がっていました。

「吹破次元(次元を吹き破る)」と名付けられた本演奏会では、スオナに加え琵琶を交えての演奏や現地 VTuber の歌唱とのコラボレーション、日本人作曲家とのオンライン共演など、様々な形で垣根を越える表現がなされ、観客の体験を一層刺激的なものにしていました。この演奏会のみならず、こうした現地ならではの手法や時代に即した表現を交えることで自分たちと異なる地域、時代の文化への親しみは深まっていくのかもしれない。



「21 世紀の結婚事情」はどうか変化したか

21 世紀の結婚事情がどのように変化をしているか。この点について、ネット上で若者の様々な意見や主張が飛び交っています。主な変化を追ってみましょう。

1：家族構成が小規模化しています。1 家族 3 から 4 人が平均的です。収入の大小、家事への取り組み、子供を持つかどうかなどの伝統的な価値観はあまり重視されていないようです。ただ一緒に暮らすだけでなく、結婚する二人が本当に愛し合っているかがより重視されるようになっていきます。

2：晩婚化、晩産化が進んでいます。結婚しない独身者の増加や、子供を望まない夫婦の増加傾向も見受けられます。

3：結婚における男女の平等性の向上、家庭内暴力の減少、夫が妻と家庭の義務を分担することなど、ジェンダーに関する均等化が見られ始めています。

4：家計の管理は、どちらか一方の集中管理から AA(夫婦分担)へ移行しています。結婚前の財産は公証され、結婚後は夫婦ともに銀行口座を開設し、独立して財産管理を行います。主な婚姻契約書では、家庭生活における経済的な義務は、それぞれが負担することになっています。

5：合理的な別れ方として協議離婚が好まれるようになっていきます。知識や教養がある人ほど情緒が豊かで、恋愛に対する要求も高く、そのため離婚しやすい傾向にあります。

6：結婚という枠組みに入るのではなく、独身時代と同じように自立した個性を持ち続けたいとする傾向が見受けられます。人々の結婚に対する責任感、外圧よりも自己認識、自己鍛錬、自己修正から生まれるものだという認識です。また結婚とはお互いを苦しめるものではなく、楽しむものであり、資産の量よりも結婚生活の質を重視します。

道徳と責任の束縛を背負って惨めに営まれたと感じる、上の世代における質の低い結婚生活に比べ、現代の結婚生活は過去と現在の探求を受け継ぐ意義をより重視しているのかもしれない。皆さんは、こうした結婚観の変化についてどのように考えますか？



初詣

「新年明けましておめでとうございます。」春節(=旧暦のお正月)を祝う中国では、旧暦の 1 月 15 日(新暦 2 月 5 日)まで新年の挨拶をします。コロナ規制から解放された中国では、各地でお正月を祝う人々の姿が連日ニュースで報道されています。

お正月といえば、「初詣」ということで、当然、中国にもその習慣があります。上海市内に由緒あるお寺はいくつかありますが、市中心部の南側、地下鉄 11 号線・12 号線の龍華駅を出てすぐのところにある龍華寺に初詣に行ってきました。

龍華寺は、三国時代に呉の孫権が、夫に先立たれた母の悲しみを慰めるために建立したのが始まりと言われていて、1700年以上の歴史があります。その長い歴史のなかで、何度か戦火に見舞われたりしており、現在の建築は清の時代に建てられたものだそうです。

お詣りの作法などは、日本とは少し違うようで、日本の10倍くらいある大きな線香を手に持ち、お辞儀をして熱心にお祈りをしていたり、仏前にひざまずいて身体を地面に投げ出すようにしてお祈りする人もいたりしますが、日本のように手を合わせて静かにお祈りする人もいます。また、仏前に花を供えたり、願い事を記した赤い短冊を木に吊したり、また、境内では多くの種類のお守りが販売されていたりして、物は少し違ってはいますが、仏を信仰する人の思いは同じようです。

龍華寺は、精進料理も有名で、なかでもうどんが絶品です。フードコートのようにしている食堂で、できたうどんを受取り、空いている席で食べます。支払いは、食べ終わった後、出口のところにいる係員に申告してお金を支払います。少なく申告する人はいないのかと思いますが、仏の前では、人は正直に申告するようです。

